全国の「歯の塚」等に関する調査研究[*1]

杉本是孝[*2]　中山孝子[*3]

要旨：現在，歯の塚に関するまとまった資料は，加藤増夫著「歯の塚探訪」が唯一のものである．その中に掲載されている宮城県仙台市の歯の塚についても，すでに2回移転され，かなりの環境変化が認められる．全国的にみても建立時と異なり，学校歯科医令（1931年）から学校保健法の公布（1958年）などにより，学校教育ならびに学校保健の管理体制，国民の意識変化などの社会的背景によって，歯の塚をめぐる環境変化がみられる．そこで全国の調査を着手し建立当時の趣旨を社会的視点からとらえ，歯の塚等に関する全体像を把握し，現状と統計的に比較検討したところ，今後の歯の塚，歯の塔などのあり方について極めて示唆に富む調査成績を得た．

調査方法：上述の著書を手がかりに参考資料とし，建立者ならびに管理者宛に質問表を送付すると同時に，歯の塚等に関する情報，意見などを収集した．

調査結果：以下の項目について述べる．

1．建立当時の状況　1）歯の塚等の建立の年　2）建立者の分類と県別　3）建立物の名称　4）建立の主な趣旨と収納品　5）建立当時の建立物の管理

2．現在の状況　1）建立物の現在の所在と管理　2）関連行事の現状について
3）毎年の収納品について

以上について総括すると，今回，確認し得た全国48基の歯の塚(歯の塔，愛歯の塔，歯の塚，歯の碑等）に関して，過去の建立当時の社会的時代背景と，現在ではかなりの意識変化，対応変化がみられた．

キーワード：歯の塔，愛歯の塔，歯の塚，歯の碑

Summary：At present, the only reference compiled on the mound of the teeth is "Inquiry into the mound of the teeth" written by Masuo Kato. A mound of the teeth mentioned in the above book, which exists in Sendai City, Miyagi Prefecture, has been already moved twice and has been subjected to a considerable circumstantial change. In viewing from nationwide scale, circumstantial changes in the mounds of the teeth are observed due to social background such as establishment of the management system of school education and school health care affected by the promulgation of School Dentist Ordinance (1931) and School Health Care Law (1958), and changes in people's consciousness. The authors started investigation of the mounds of the teeth in all parts of Japan, analyzed the intention of initial construction from social standpoint, grasped an total image on the mounds of the teeth and the like, and statistically compared the results with the present state of them. Very suggestive study results, on the way the future mound of the teeth and the tower of the teeth should be, have been obtained.

Method of investigation：The authors, using the above-mentioned book as a reference, sent questionnaires to persons who constructed the mounds of the teeth and persons who had been managing them, and collected at the same time information and opinions on the mounds of the teeth and the like.

Results of investigation：The following items have been investigated.

1. Situations at the time of construction：(1) year of the construction of the mounds of the teeth and the

like, (2) classification by the type of persons who constructed them and by prefectures, (3) name and place of constructed objects, (4) main intention of construction and stored objects, (5) initial management system for constructed objects

2. Situations at present : (1) place and management system of constructed objects at present, (2) present state of events to be held, (3) stored objects every year

As a result of this nationwide study conducted on 48 units of the mounds of the teeth and the like (tower of the teeth, tower of the lovely teeth, mound of the teeth, monument of the teeth), considerable changes have been recognized in consciousness and measures for handling them between at the time of construction and at present, due to changes in social background.

Key words : Tower of the teeth, Tower of the lovely teeth, Mound of the teeth, Monument of the teeth

はじめに

古代より洋の東西を問わず，歯に関する習慣，伝説，信仰などは多く[1]，日本においては，歯の塚，石碑，歯の塔などが建立され，地蔵，歯に関連ある神社など含めると，その数は少なくない[2,3]．現在，歯の塚として実在し管理されている最初のものは1797年（寛政9年）に建立されたものと思われる[4]．その後200年間に地域的にあるいは散発的に各地で建立され，抜去歯が身体の一部として機能した感謝のしるしとして，収納し供養され，それと同時に，学校歯科衛生，口腔衛生普及の一助とされていた．

現在，歯の塚に関するまとまった記載は，加藤増夫著「歯の塚探訪」があるのみである．その中に掲載されている宮城県仙台市の歯の塚についても，すでに2回転移され（最終2000年7月29日），かなり環境変化が認められる．全国的にみても，建立時と異なり，学校歯科医の法制化，すなわち1931年（昭和6年）の学校歯科医令から1958年（昭和33年）の学校保健法の公布などにより，学校教育ならびに学校保健の管理体制，国民の意識変化などの社会的背景によって，歯の塚をめぐる環境変化がみられた．そこで全国の調査を着手し，建立当時の趣旨を社会的視点からとらえ，歯の塚等に関する全体像を把握し，現状と統計的に比較検討したところ，今後の歯の塚，歯の塔などのあり方について極めて示唆に富む調査成績を得たので，その概要を報告する．

調査方法

上述の1988年の「歯の塚探訪」は著者（加藤増夫）が実際に訪問して調査した貴重な資料である．この資料を手がかりに参考資料とし，2001年5月末に建立者ならびに管理者宛に**表1**のような質問表を送付すると同時に，歯の塚等に関する情報，意見などを収集した．回答不充分なものは，口答により直接調査した．書籍に記載もれは追加調査し，かつ1986年以降についても可能な限り資料を収集した．その結果，48の関係者，団体から回答を得，回収率は100％であった．なお調査は，歯の塚，あるいは石碑や歯の塔として建立されたものを歯の塚等として一括し，伝説，伝承として実在する神社，地蔵などは調査対象から除外した．

調査結果

調査の内容を時代背景によって明確にするため，建立当時の状況に区別した．

I．建立当時の状況

1）歯の塚等の建立の年

種々の記録により確認できたもっとも古い歯の塚は，東京都荒川区にある養福寺境内のものと思われる．江戸時代に3基，1881年（明治14年）に1基，その後の大正時代にはなく，1938年（昭和9年）と1951年（昭和26年）に2基建立された．この1951年に宮城県仙台市に建立された塚（学校

---

*1 Study on "Mound of the Teeth" in All Parts of Japan

*2 Koretaka SUGIMOTO, Director, Sugimoto Dental Oral Surgery, Sendai City 仙台市，杉本歯科口腔外科院長

*3 Takako NAKAYAMA, Sugimoto Dental Oral Surgery, Sendai City 仙台市，杉本歯科口腔外科

本論文の要旨は，第29回日本歯科医史学会（2001年10月20日，東京），日本歯科医療管理学会，第5回東北支部学術例会（2001年10月21日，仙台），および第54回東北地区歯科医学会（2001年10月28日，秋田）において口演した．

表 1　質問表

1．現在，(塚)(塔)(碑) は建っていますか？
　1）はい　　2）いいえ　　3）わからない
2．建っている所は以前と同じですか？
　1）同じ　　2）移転先（　　　　　　　）　　3）撤去・不明
3．現在，歯の衛生週間などに関連して行事を行っていますか？
　1）行っている　　2）行っていない　　3）わからない
4．関連行事の目的は何ですか？
　1）供養　　2）感謝　　3）健康・保健向上　　4）その他（具体的に）
5．関連行事のとき歯やその他を収納していますか？
　1）歯　　2）その他　　3）していない
6．イベントに参加する人達はどなたですか？
　1）歯科医師会会員　　2）生徒（歯科衛生士学院・小学校）　　3）一般人
7．管理はどこでしていますか？
　1）歯科医師会　　2）小学校　　3）寺院・神社　　4）県市町村　　5）個人
　6）していない・不明

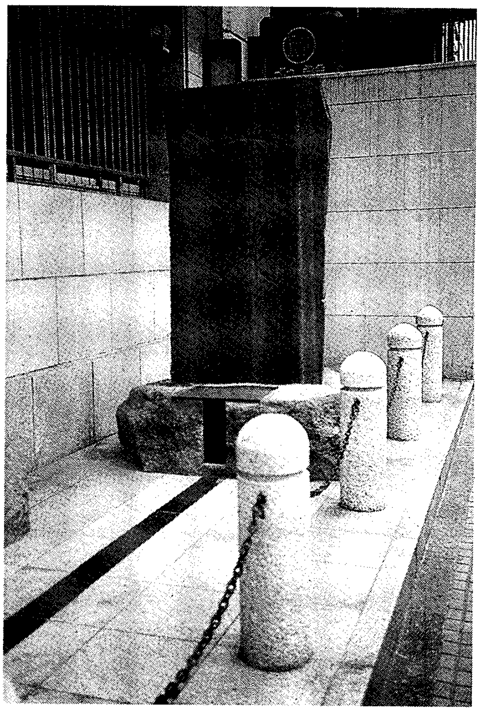

図 1「歯の塚」
水谷　盛建立 (1951 年)，仙台市

歯科医令 20 周年記念，建立者，水谷　盛) は，日本で初めて「歯の塚」と命名され，その後，歯の塚の名称が広く用いられた (**図 1**)．昭和時代の後期になり，岐阜県内の小学校で，歯の塔として数多く建立されたことが注目される (**表 2**)．

また最近では 1999 年 (平成 11 年) 個人 (建立者，前田秀夫) が歯の塚を建立している (**図 2**)．

2）建立者の分類と県別

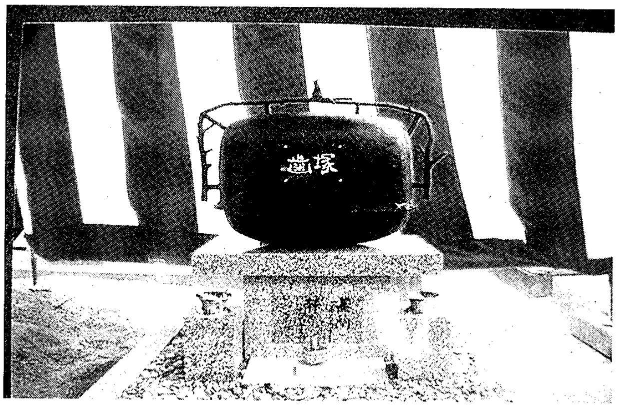

図 2「歯の塚」
前田秀夫建立 (1999 年)，和歌山県金屋町

建立者は学校歯科保健活動に熱心な歯科医師，または学校歯科医 (小学校) が歯の塔として岐阜県内に建立した 21 基が最多である．個人では 47 基のうち 10 基 (20.8%)，歯科医師会立では 5 基 (10.4%) にすぎなかった (**表 3**)．

上述の岐阜県のほか，東京都 6 基，神奈川・愛知・和歌山県各 2 基のほかは散発的であり，四国地方および本州日本海側には見当らなかった．

3）建立物の名称と場所

一般に社会通念上，塚 (冢) とは墓 (Tomb または Mile-stone) のことであり，碑とは石に文を刻んだものであり，塔は広くシンボルを意味する．この三者には共通した意味合いと類似した構造もあるが，今回は建立物にきざまれた名称により分類した．

すなわち，塔は 47 基のうち 28 基 (58.3%) で，

表 2　歯の塚塔の設立の年

年＼項目	数	備　考
1797（寛政 9） 1819（文政 2） 1833（天保 4）	1 1 1	江戸時代（塚・荒川区） 江戸時代（碑・北区） 江戸時代（塚・目黒区）
1881～1938	2	1881（明治 14）（入歯師・塔・神奈川県） 1938（昭和 9）（塔・目黒区）
1950～1959	7	1951（昭和 26） 歯の塚（宮城県）など
1960～1969 1970～1979 1980～1989	7 18 10	1968（昭和 44）から 1986（昭和 62）まで 岐阜県内で小学校校庭に 21 基設置（塔）
1990～	1	1999（平成 11）（塚・和歌山県）
計	48	

表 3　建立者分類と県別

種別＼項目	数	県　別	率（%）
個　人	10	北海道（1）宮城（1）東京（3）山梨（1）岐阜（1） 大阪（1）兵庫（1）広島（1）	20.8
歯科医師会	5	神奈川（2）兵庫（1）和歌山（1）熊本（1）	10.4
学校歯科保健関係	24	愛知（1）福岡（1）熊本（1）岐阜（21）	50.0
仏教的関係	2	京都（2）	4.2
その他（有志等）	7	東京（3）神奈川（1）和歌山（1）愛知（1）福岡（1）	14.6
計	48	48	100

（注：地蔵は除く）

表 4　建立物の名称

名称＼項目	数	小　計	率（%）
歯（牙）の塔	23	28	58.3
供養塔	3		
愛歯の塔	2		
（抜）歯（の）塚	11	20	41.7
歯霊（魂）碑	8		
歯刹（墓）	1		
計	48	48	100

表 5　建立の場所

場所＼項目	場所(数)	小　計	率（%）
歯科医師会館敷地	2	26	54.2
小学校校庭	24		
神社・境内	2	15	31.3
寺境内・墓地・霊園	13		
図書館敷地・公園・庭	4	4	8.3
山ろく	3	3	6.3
計	48	48	100

塚，碑，基などは 20 基（41.7%）であった．小学校の校庭に建立された 24 基のうち，1 基をのぞいて 23 基が塔であった．したがって建立の場所は小学校校庭が全体の半数を占めた．神社や寺の境内は 15 基（31.3%）であった（**表 4**，**表 5**）．

4）建立の主な趣旨と収納品

表 6　建立の主な趣旨

趣旨＼項目	数	率（%）	収納品	
			歯	
			歯	なし
歯の供養	15	31.3	12 義歯等（2）	3
供養と感謝	4	8.3	4	0
感謝と知識・歯科保健	2	4.2	2	0
健康・学校保健の向上	26	54.2	25 乳歯（1）	1
交流と親睦	1	2.1	1	0
計	48	100	44	4

表 7　建立当時の建立物の管理

管理＼項目	数	率（%）
歯科医師会	8	16.7
小学校	25	52.1
寺院・神社	3	6.3
個　人	8	16.7
不　明	4	8.3
計	48	100

表 8　塔および碑の材質

種別＼項目	数	率（%）
石　類	27	56.3
コンクリート白セメント	20	41.7
陶　器	1	2.1
計	48	100

建立の趣旨については，小学校に建立した歯の塔などは，すべて健康を願い，学校保健の向上の一助とした趣旨から，全体の半数以上（54.2%）を占めた．その次は歯の供養（31.3%）や，供養と感謝（8.3%）であった．交流と親睦を主な趣旨とした所も1カ所みられた（**表 6**）．

収納品について48基のうち，44基に抜去歯を納歯していた．そのうち2基は義歯と技工の道具，他の1基は乳歯のみであった．

また48基のうち4基は納歯その他の収納品は

表 9　現在，塚（塔）（碑）は移転も含め建っていますか？

有無＼項目	数	率（%）
あ　る	47（4）	97.9
な　い	1	2.1
計	48	100

表 10　現在，管理はどこでしていますか？

種別＼項目	数	率（%）	
歯科医師会	5	10.6	14.9
歯科医師会と寺院・神社	2	4.3	
寺院・神社	9	19.1	25.5
寺院と個人	3	6.4	
個　人	4	8.5	
小学校	23	48.9	
大学歯学部	1	2.1	
計	47	100	

表 11　現在，関連行事を行っていますか？

有無＼項目		数		率（%）	
行っている	小学校	12	29	25.5	61.7
	その他	17		36.2	
行っていない	小学校	11	18	23.4	38.3
	その他	7		14.9	
計		47		100	

していなかった（表 6）．

5）建立当時の建立物の管理

建立物の管理は小学校25校（52.1%）が過半数である．次いで歯科医師会が8カ所（16.7%），その他であった．また管理者の記載がなく，不明は4基あった（**表 7**）．

なお，塚・塔および碑の材質は蛇紋石，みかげ石，青石などの石類が27基（56.3%），コンクリート類は20基（41.7%），陶器は1基あった（**表 8**）．

II．現在の状況

1）建立物の現在の住所と管理

建立当時から同じ場所に立っているかどうかを質問した結果，同一場所は48基のうち43基で，

表 12 関連行事の趣旨

趣旨＼項目	数	率 (%)	
供養と感謝	21	72.4	86.2
供養と感謝 交流と親睦	1	3.4	
供養と感謝 健康・保健の向上	3	10.3	
健康・学校保健 の向上	3	10.3	
供養と感謝 健康・保健の向上 歯科医師会の PR	1	3.4	
感　謝	0	0	
計	29	100	

注：関連行事なしは 18

表 13 関連行事に参加する人達

参加＼項目		数	率(%)
歯科医師会会員	会員のみ	5	17.2
	関係者	2 (三師会①, 養護・保健①)	31.0
	一般人	4	
	大学生 学院生徒 児　童	3	
児　童		10	37.9
児童と PTA		1	
歯科医関係者 寺関係者		4	13.8
計		29	100

表 14 毎年の収納品

種別(数)＼項目	収納品		計	率(%)	なし
	歯	義歯			
塔 (25)	12	1	13	48.1	12
塚 (14)	7	0	7	25.9	7
碑・霊 (7)	5	2	7	25.9	0
歯利 (墓) (1)	0	0	0	0	1
計 (47)	24	3	27	100	20
率 (%)	88.9	11.1		100	

4基は校舎改築や整地のため移転再建立されたが，1基はすでに撤去されているとの回答を得た (岐阜県Y郡T小学校) (**表9**).

また，現在，建立物の管理をどこでしているか集計したところ，47基のうち小学校が約半数 (48.9%) であったが全基が小学校校庭にあるものであった．歯科医師会は5基 (10.6%) でそのほかは複数の管理が多かった．また宗教関係の大学歯学部で管理している所が1基あった (**表10**).

2) 関連行事の現状について

1) 現在，関連行事 (供養その他イベント) を行っている所は47カ所のうち29カ所 (61.7%) にとどまった．小学校では23校中，約半数の12校であった．小学校以外では関連行事を行っている割合はしていないより約3倍多かった (**表11**).

2) 関連行事の趣旨は，供養と感謝が21カ所 (72.4%) でもっとも多く，供養とその他の趣旨を合わせると25カ所 (72.4%) を占めた．そのほか，健康，学校保険の向上などは4カ所 (13.7%) であった (**表12, 13**).

3) 毎年の収納品について

毎年収納品 (納歯) などを行っているかどうかの調査では，47基中27基で57.4%であった．27基のうち，義歯が3カ所収納されている (**表14**).

総括ならびに考案

人は加齢とともに，歯の大切さや，健全な歯が咀嚼や健康に重要な役割をはたすことを自覚する様になり，抜歯への哀愁，愛着，感謝などの敬意をいだくようになる．古くから歯科関係者のなかで，宗教的立場で，後世に歯の塚等を残し，一方では学校歯科保建の立場で，健康教育や学校保健の向上を願って，歯の塔などが建立されてきた．

現在のところ，歯の塚に関するまとまった資料は前述の「歯の塚探訪」が唯一のものである．同書によると，今から200年以上前に最初に建立されてから，40数基の事物が詳述されている．

しかしながら，建立当時と今日では，種々の社会的背景の変革によって，歯の塚等に関する趣旨，管理，状況などの社会的環境に伴って大きな変化がみられたと思われる．そこで建立者ならびに管理者に質問表を送付し，また直接口答により問い

合わせて確認し建立当時と現状を比較検討した.

なお，建立物の名称は，刻まれた名称により，塚，碑，塔などに区分し分類した．回収率は 48 基（現在数 47 基）全部から回答を得た.

以下，若干の考察を加えて総括する.

1）日本で最初と思われる歯塚は，1797 年建立で形は石碑であり，東京都荒川区，養福寺境内に現存している．また，最近の歯の塚は 1999 年建立である.

2）総数 48 基のうち，1 基は撤去され，4 基は移転建立された．県別では歯の塔として岐阜県内小学校の 21 基が最多である．これは昭和 40 年代，50 年代に岐阜県歯科医師会の学校歯科医や学校歯科保健に対する熱意の表れと思われる.

3）歯の塚建立や，供養の減少については，第 2 次大戦後は信仰の自由，宗教の多様化，個人の自由主義により，佛教的土壌が稀薄になったためと思われる.

4）歯の塔については，昭和後期ならびに平成の時代となり，小学校長の学校管理権限の低下，学校歯科保健の充実および学校歯科医の充足，学童のう蝕の減少などの社会的要因により，歯の塔の建立趣旨がうすれたものと思われる.

5）現在，小学校で，関連行事として供養その他のイベントを行っている所は約半数で，毎年納歯を行っている所はその又，半数であった.

6）建立時の趣旨は，全体の半数にあたる小学校では全校が健康や学校保健の向上であった．現在では小学校以外では，歯の供養が関連行事の主な趣旨で 80％を超えていた．なお，関連行事の約半数に歯科医師会が参加し，歯科保健や歯科医師会の PR に力を入れている傾向がみられた.

むすび

全国の歯の塚に関する調査研究を行い建立時と現況を比較検討した．その結果，歯の塚等に関して過去の建立当時と社会的時代背景によりかなりの意識変化，対応変化がみられた.

稿を終えるにあたり，貴重な資料と御校閲をいただいた，日本歯科医史学会理事，榊原悠紀田郎博士に感謝いたします.

付記

今回の調査研究に御回答いただいた，建立物の住所と名称を列記し，御協力に感謝を表します．なお，住所の地番と宛名は割愛いたしました.

No	郵便番号	住　所	名　称
1	075-0021	北海道芦別市南一条	抜歯塚
2	980-0803	宮城県仙台市青葉区国分町	歯の塚
3	116-0013	東京都荒川区西日暮里	妍斎落歯塚
4	143-0025	東京都大田区南馬込	歯の供養塔
5	114-0023	東京都北区滝ノ川	瘞歯誌碑
6	150-0043	東京都渋谷区道玄坂	歯霊供養塔
7	100-0000	東京都千代田区市ヶ谷	歯の供養塔
8	153-0061	東京都目黒区中目黒	歯　冢
9	231-0013	神奈川県横浜市中区住吉町	歯の塚
10	251-0032	神奈川県藤沢市片瀬	萬人歯骨塚
11	258-0017	神奈川県足柄上郡大井町	歯の供養碑
12	400-0306	山梨県中巨摩郡櫛形町	歯霊碑
13	501-1109	岐阜県岐阜市安食	歯の塔
14	500-8333	岐阜県岐阜市此ノ花町	歯の塔
15	506-0818	岐阜県高山市江名子町	歯の塔
16	506-0004	岐阜県高山市桐生	歯の塔
17	506-0007	岐阜県高山市総和町	歯の塔
18	507-0813	岐阜県多治見市滝呂町	歯の塔
19	501-3705	岐阜県美濃市立花	歯の塔
20	505-0052	岐阜県美濃加茂市加茂野	歯の塔
21	503-2415	岐阜県揖斐郡池田町	歯の塔
22	503-2403	岐阜県揖斐郡池田町	歯の塔
23	503-2417	岐阜県揖斐郡池田町	歯の塔
24	503-2406	岐阜県揖斐郡池田町	歯の塔
25	503-2426	岐阜県揖斐郡池田町	歯の塔
26	501-0633	岐阜県揖斐郡揖斐川町	歯の塔
27	501-0555	岐阜県揖斐郡大野町	歯の塔
28	501-0562	岐阜県揖斐郡大野町	歯の塔
29	501-5413	岐阜県大野郡荘川村	歯の塔
30	503-0536	岐阜県海津郡南濃町	歯の塔
31	501-4305	岐阜県郡山郡明宝村	歯の塔
32	501-0223	岐阜県本巣郡穂積町	歯の塔
33	503-1625	岐阜県養老郡上石津町	歯の塔
34	503-1300	岐阜県養老郡養老町	歯魂碑

35	460-0011	愛知県名古屋市中区大須	歯歯塚
36	447-0863	愛知県碧南市新川町	愛歯の塔
37	602-8076	京都府上京区西洞院通	歯　刹
38	613-0022	京都府久世郡久御山町	親鸞聖人の歯牙塔
39	579-8011	大阪府東大阪市東石切町	歯之碑
40	659-0065	兵庫県芦屋市公光町	歯の供養塚
41	669-6702	兵庫県美方郡浜坂町	歯の塚
42	649-0300	和歌山県有田市金屋町	歯の塚
43	644-0012	和歌山県御坊市湯川町	歯　塚
44	737-0056	広島県呉市朝日町	歯魂碑
45	810-0041	福岡県福岡市中央区大名	感謝愛歯の塔
46	830-0416	福岡県三潴郡大木町	愛歯の塔
47	863-2171	熊本県本渡市佐伊津町	「歯を大切にする心」の碑
48	863-0014	熊本県本渡市東浜町	歯恩の碑

注：No. 3, 5, 35, 37 は歯科医師以外の人が主導となって建立されたもの

引用文献

1) 小林富次郎：聖女アポロニアの傳，よはひ草，第 1 輯，目録，4 頁，思文閣，東京，1971
2) 榊原悠紀田郎：口腔衛生(歯の塚と歯の供養)，日歯医師会誌，21；1117-1119，1969
3) 本間邦則：歯を祀ること．Dental Diamond 12：56-57，1983
4) 加藤増夫：歯の塚探訪，112-113，医歯薬出版，東京，1988
5) 栃原義人：歯朶の道，380-385，栃原義人記念出版会，熊本，1972